

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第2版』教師用手引き

本教材をご使用の指導者の皆さまが授業をする際の一助になればと、教師用手引きを作成いたしました。本冊と併せてご利用ください。

「手引き」は二部構成です。

第Ⅰ部：本書の各課の項目（1～11）についての解説

- 第Ⅱ部：1. 授業の進め方の例  
2. 語彙の学び方の例  
3. 本文を使った試験問題例

**第Ⅰ部**

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1. 扉のページ（話しましょう） | 7. チェックシート  |
| 2. 本文            | 8. 聴解タスクシート |
| 3. ことばを確かめよう     | 9. 作文       |
| 4. 内容を確かめよう      | 10. プラスアルファ |
| 5. 学習項目          | 11. 漢字練習    |
| 6. 学習項目の練習       |             |

1. **扉のページ（話しましょう）**

各課の最初のページです。本文の内容についての関心を高め、内容理解の手助けになるウォームアップです。「イラストを見る・質問に答える・友達と話す」などのことから、学習者の頭の中に蓄積されている経験や知識や考えを活用します。このページで提出される新しい言葉もあります。

2. **本文** (CD)

19行～24行の長さの読み物。

3. **ことばを確かめよう**

1) 言葉のリスト

- ・「みんなの日本語初級（第2版）」「中級へ行こう（第2版）」の学習語彙は既習としていますが、既習か初出かに関わらず、本文理解に必要な言葉を取り上げました。
- ・提出順は動詞・名詞・い形容詞・な形容詞・その他です。
- ・別冊に四か国語（英語・中国語・韓国語・ベトナム語）の訳をつけてあります。訳は本文で使われている語義です。

## 2) 練習問題

言葉は単独で覚えるだけではなく、連語や、文の中での使われ方を知ることが大切です。練習問題をしてみることで、言葉の定着度を知ることが学習者・教師双方にとって有益です。問題は大きく2問あり、品詞でまとめた形で提出してあります。

4. 内容を確認しよう

- ・大意を問う質問：内容を大まかに捉えているかの質問です。  
内容の正誤問題、段落毎の大意をとらえる問題、適語補充問題などです。
- ・精読用質問：内容についての細かい質問や指示語が指しているものを答える問題、内容をまとめるために語彙を記入する問題などです。

5. 学習項目 56+☆13

- ・各学習項目に、意味や用法が説明してあります。説明には英語・中国語・韓国語・ベトナム語の対訳をつけてあります。教師はこれを利用しつつ、分かりやすい日本語で説明を加え、接続や意味を確認してください。
- ・例文①は本文の中の文です。本文のどこにあるか、確認させてください。
- ・さらに例文を2、3文加えました。意味や用法を確認してください。
- ・☆は提出された学習項目に関連性がある発展的な学習項目で全部で12あります。本文の中では扱われていない項目ですが、練習問題もあります。☆の学習項目はチェックシートの問題には含まれていません。

6. 学習項目の練習

- ・基本練習：正解が1つのもの
- ・応用練習：正解が1つではなく、文完成など自由に答えられるもの
- ・読もう：目標の学習項目が使われている短い読み物を読み、質問に答えます。関連して、話す活動にも繋げてください。
- ・聞こう：目標の学習項目が使われている文章をCDで聞き、( )に言葉を書きます。さらに内容についての質問に答えます。他の人と内容について話す活動にも繋がられます。
- ・書こう：目標の学習項目を使い、テーマに沿って短めの作文を書きます。書いたものをクラスで発表し、QAをするなどの活動に広がります。話す活動の時は書き言葉と話し言葉の違いに注意を向けさせます。

7. チェックシート

- ・新しい学習項目や「本文」で提出された言葉、練習問題に出てくるもの(助詞や語彙など)が理解できているかどうかをチェックします。
- ・2択問題で10問。5分程度でできるものです。学習の振り返り、小テスト、宿題な

どにご利用ください。

- ・その課で扱っている学習項目や語彙を全て網羅しているものではありません。
- ・発展学習☆の項目は含まれていません。

## 8. 聴解タスクシート (CD)

1) 本文に空欄があるものです。

**使い方 1** ①CDを聞きながら、空欄に言葉を記入します。記入する時間が必要なので、CDを止めながら進めます。

②終わったら、学習者はミスがないか自分で見直しします。再度CDを聞きながら確認し、最後に本文を見て、表記に間違いがないかチェックします。

**使い方 2** 学習理解度を知るために、空欄に言葉を記入させるテストとしても利用できます。

2) 質問

質問文を聞きとり、文単位で答えを書くための問題です。要点だけを単語で答えるのではなく、文で書く必要があります。答えを書く際、本文を参照してもいいです。各課2問あります。

## 9. 作文

各課のテーマに沿って、まとまりのある文章を書きます。前作業として、テーマに関係がある読み物を読んだり、自分のことについて考えたりします。

表記に注意し、できるだけ語彙、表現を豊かに使い、段落構成を意識して書きます。教師の添削の後、清書させます。書き直しはよい練習になります。

書いた作文を発表し、話す活動にも繋げられます。書き言葉と話し言葉の違いに注意をさせます。

## 10. プラスアルファ

各課の本文に関連して、より幅広い学習をします。

- 1 課：形容詞の名詞化
- 2 課：数字のある熟語
- 3 課：ステレオタイプ（国民性のイメージ）
- 4 課：花粉症チェック
- 5 課：位置を表す言葉
- 6 課：味を表す言葉・食事の言葉
- 7 課：自己アピールに関する言葉
- 8 課：ディベート：人の第一印象と外見の関係

## 1.1. 漢字練習

この本での漢字練習の目的は本文がルビなしで読めることです。ルビなしで読めるようになると、学習者は自信が持て、語彙の定着度も増します。

各課 20～32 字を取り上げました。全部で 193 字です。構成は次のとおりです。

### 1) 漢字リスト

各漢字の音訓は全て書いてありますが、右欄に提示されている漢字語彙の音訓だけ導入します。語彙は基本的に本文中のものと、既習のもので。

### 2) 読み練習

問題 1 : 本文で使われている漢字語彙の読み。

問題 2 : 既習漢字であるが、この課の本文で学習した読み方や漢字語彙。

問題 3 : この課で学習した漢字語彙やその関連語 (例: 反意語) の読み。

既習漢字を含む漢字語彙の読み。

### 3) ルビなし本文

学習者一人一人がルビなしで全文読めるように練習します。初めはゆっくりでもいいですが、「意味のまとまりがわかるように読む」ことが大切です。

**第Ⅱ部**

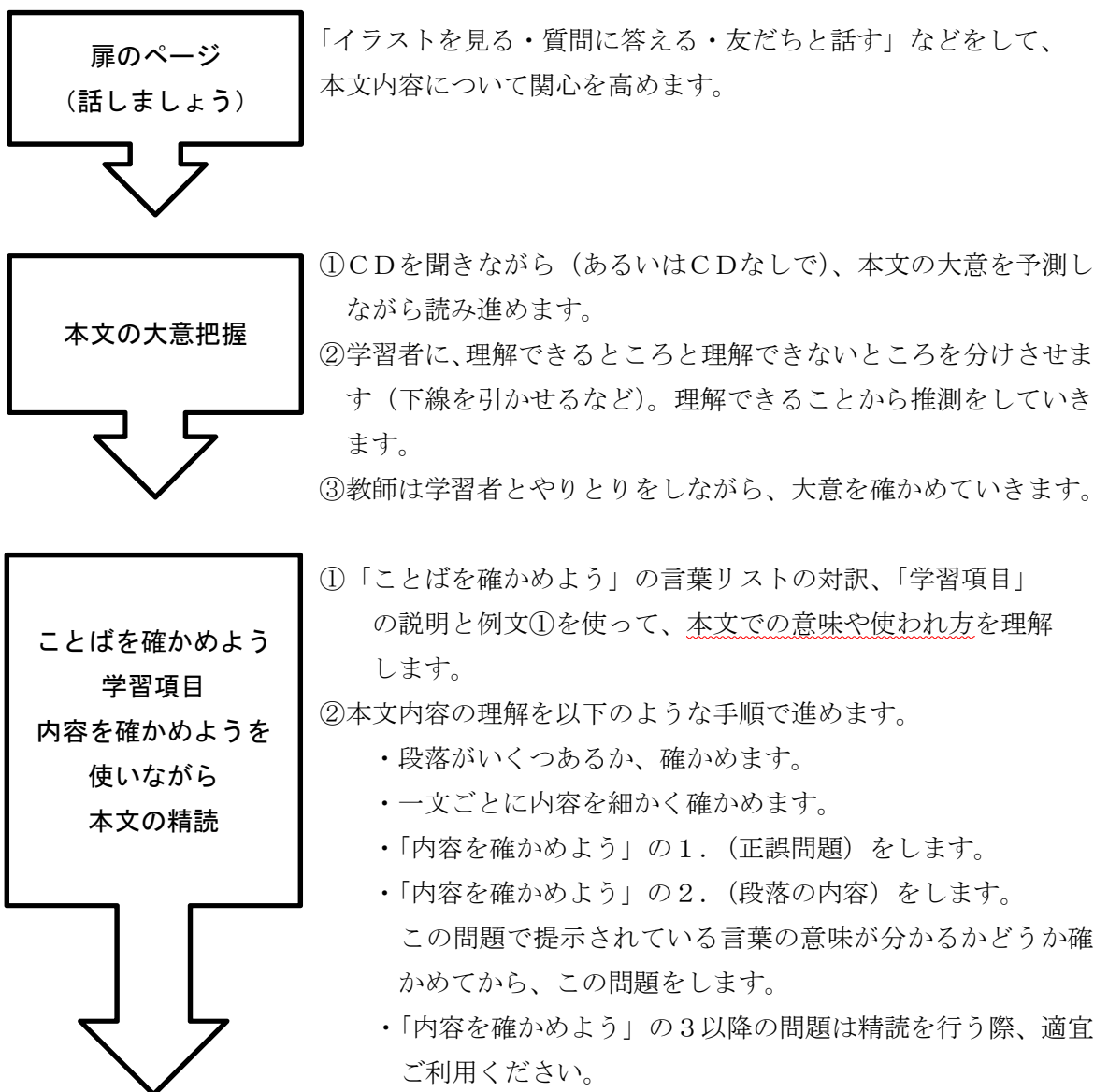
第Ⅱ部では、【1. 授業の進め方の例】・【2. 語彙の学び方の例】・【3. 本文を使った試験問題の例】をご紹介します。

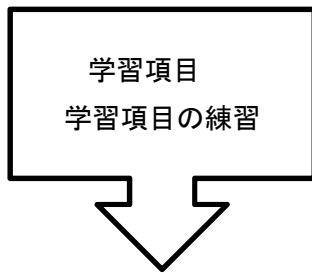
**【 1. 授業の進め方の例 】**

それぞれの学校や学習環境で、学習の進め方は多様だと思います。

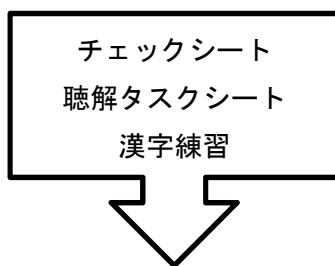
ボトムアップ方式では「小さい部分を学ぶ」→「文章全体を把握する」、すなわち、「学習項目」→「本文の言葉」→「本文理解」という流れでしょう。

ここでは授業の進め方の方法として「トップダウン+ボトムアップ」を使って、まず本文の内容を理解し、その後学習項目以下、本に提示されている順に学習を進める例をご紹介します。

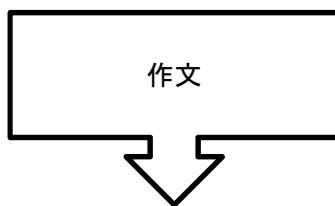




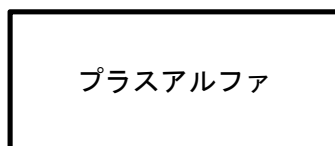
- ①学習項目の運用練習をします。
  - ・学習項目の意味接続及び例文の意味を再度確認します。
  - ・学習者のレベルや状況に応じて、例文を加えるとよいでしょう。
- ②練習問題に進みます。
  - ・「読もう」「聞こう」「書こう」の練習は話す活動にも繋げられます。
  - ・どの練習も文字が正確に書けているかといった基本的なことが大切です。



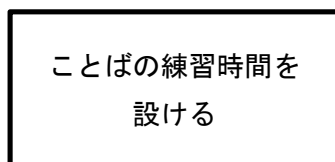
- ・順番は状況に応じて取り組みます。



- ①本文内容と関連した内容の作文を書きます。
- ②学習者が学習の成果を実感することに繋がるので、作文を発表させる場を設けます。



- ・学習時間や学習者のレベルに応じて進めます。
- ・話す練習に発展させることもできます。



- ・言葉を定着させるために、別に練習時間が設けられることが望ましいです。方法は次の【2. 語彙の学び方の例】を参照してください。

【 2. 語彙の学び方の例 】

言葉を学ぶには、言葉に触れる回数をできるだけ多くすることが有効です。そのための練習方法の例をいくつかご紹介します。本文で扱われている語彙、練習問題で扱われている語彙、どちらも、語彙のための練習時間をできるだけ設けることが望ましいです。どんな言葉と一緒に使われるか、どんな文の中で使われるかなど、学びます。

**A** 予習を課す

- 1) 「ことばを確かめよう」 1. 語彙リストに対訳を記入させるなど、予習をさせる。  
 学習者により、未習の言葉・忘れてしまった言葉は異なるので、分からない言葉は辞書で調べさせます。これは例文に触れたり、他の意味を知ることにもなり、有効です。

\* 「学習項目の練習」の語彙も同様の予習を課すと、学習項目の練習が容易になります。

**B** 教室で：「ことばを確かめよう」 1. の語彙リストを使って

- 1) 教師と一緒に読む。  
 ①教師のあとに続けて、全員一緒に読みます。(安心感を持って読むことができる)  
 ②続けて、一人ずつ順番に読みます。グループで行ってもいいでしょう。

- 2) クイズの要領で学生Aがある言葉の説明文を作り、学生Bがその言葉を推測し、答える。これは言葉の言い換えの練習にもなります。

例：(第1課)

A：これは、例えばピアノとかギターです。

B：「楽器」ですか。

A：はい、そうです。

- 3) 新しい言葉を1～2つ使って、文を作る。

考える時間を与え、発表させます。

ことばの組み合わせ、助詞、接続などの間違いが出たら、丁寧に修正します。

・・・以下の4) 5) は教師の事前準備が必要です。

- 4) 教師が言葉を選び、その言葉が使われる場面を想定した質問をする。

学習者が出題者になることも可能です。

例：(第2課 手数料)

教師：どんな時に、「手数料」が必要ですか。

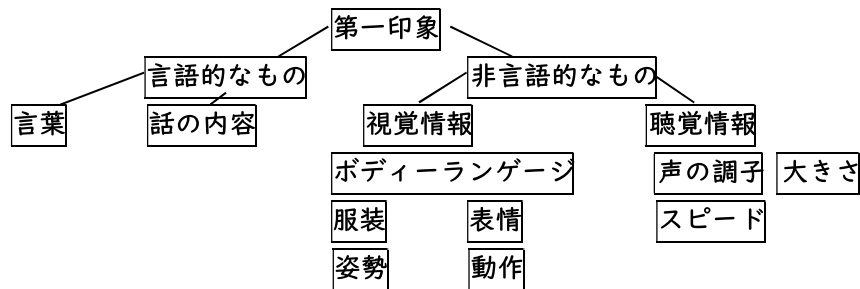
学習者A：外国のお金を自分の国のお金に替える時、手数料が必要です。

学習者B：お金を借りる時、手数料が要ります。

5) 語彙をマップでまとめる。

- 文章の内容を語彙マップでまとめる作業です。下の8課の例は本文全体の内容ですが、段落単位の語彙マップも内容によって可能です。
- 語彙マップの一部を空欄にした形にすると、学習者にはやりやすくなります。
- 復習の小テストとしても有効です。

例：(第8課—本文)



**C** 語彙定着の確認として小テストをする。

1) 適語選択問題を作成するします。

「ことばを確かめよう」の 2. 練習 を参照してください。

2) 確認したい語彙を使った例文を提示し、文完成問題をする。

例：(第6課—跳ね上がる)

\_\_\_\_\_ ので、野菜の値段が跳ね上がっている。



【 3. 本文を使った試験問題の例 】

1つの課が終了した時、学習者の理解度を知るために、試験を課している学校が多いと思います。文法の試験問題については学習項目の練習を参考に適宜選択したり、新たに作成したりしてください。これに加え、中級では文章の読解の力がついてきているかどうかを問うことも必要です。

ここでは第1課の本文を使った試験問題例をご紹介します。段落単位の試験問題例と本文全体の問題例とに、分けてをご紹介します。

試験問題例は本文で提示されている語彙（助詞・接続詞含む）の問題、内容理解の問題などです。各課にある「内容を確認しよう」の質問の転用も有効です。

これらを参考に、学習者のレベルに合わせた本文の試験問題を作成してみてください。試験問題を作成する過程で、教師が何をどのように教えたらいかがが見えてきます。

第1課本文を使った試験問題例—その1—段落単位

1課 第一段落 (適語選びの問題)

1. □から言葉を選び、適当な形にして ( ) に書きなさい。

いやされる する 利用する もたらす 忘れる

疲れた時、寂しい時、ストレスがたまった時に、音楽を聞いて、気持ちをリラックスさせるという人が多い。私たちは好きな音楽を聞くと、心が落ち着いたり、寂しさを ( ) りする。また自然の中の音、例えば波の音、小鳥の鳴き声を聞いて心が ( ) りする。このように音楽・音を ( ) ストレス解消や体を元気に ( ) ことを「音楽療法」という。

1課 第二段落 (内容把握の問題)

1. 文を読んで、質問に答えなさい。

「音楽療法」の方法はさまざまで、音楽を聞く、歌を歌う、歌に合わせて手遊びをする、楽器を演奏するなどがある。最も簡単な方法は「聞く」ことだろう。

- 1) 音楽療法の方法がいくつ書いてありますか。
- 2) 何がいちばん簡単な方法ですか。

1 課 第三段落 (助詞と接続詞の選択問題・内容把握の問題)

1. 文を読んで、質問に答えなさい。

では、どんな音楽を聞いたらいいのだろうか。嫌いな音楽を聞いてもリラックスできるわけがない。自分 (a ) 好きな音楽を聞くこと (b )、心のいやしになるのである。(㊦ また・したがって・しかし)、クラシックが好きな人はクラシック (c )、演歌が好きな人は演歌を聞くのが効果的な方法だ。

1) (a) (b) (c) に合うものを□から選んで書きなさい。

も    こそ    から    の    を

2) ㊦に合う言葉を選びなさい。

3) リラックスする方法は、どんなことが効果的ですか。

第1課本文を使った試験問題例—その2—本文全文

I. 文を読んで、質問に答えなさい。

1) 【a~e】に合う言葉を選びなさい。

2) □から言葉を選び、(①~⑥)に適切な形にして書きなさい。

演奏する    落ち着く    もたらず    たまる    注目される    する    とる

疲れた時、寂しい時、ストレスが(① )時に、音楽を聞いて、気持ちをリラックスさせるといふ人が多い。私たちは好きな音楽を聞くと、心が(② )り、寂しさを忘れてりする。【 a また・したがって・それで 】自然の中の音、例えば波の音、小鳥の鳴き声を聞いて心がいやされたりする。このように音楽・音を利用してストレス解消や体を元気に(③ )ことを「音楽療法」という。

「音楽療法」の方法はさまざまで、音楽を聞く、歌を歌う、歌に合わせて手遊びをする、楽器を(④ )などがある。最も簡単な方法は聞くことだろう。

では、どんな音楽を聞いたらいいのだろうか。嫌いな音楽を聞いてもリラックスできる【 b わけがある・わけがない 】。自分の好きな音楽を聞くことこそ、心のいやしになるのである。【 c また・したがって・それで 】、クラシックが好きな人はクラシックを、演歌が好きな人は演歌を聞くのが効果的な方法だ。

【 d また・したがって・それで 】、言葉でコミュニケーションを (⑤ )  
のが難しい人が、音楽療法士と一緒に歌ったり、演奏したりして、次第にコミュニケーション  
がとれるようになった事例がある。

ストレスの多い現代社会に音楽・音がどのような効果を (⑥ ) か、今後、  
【 e さまざま・より 】注目されていくだろう。

3) 「このように」はどのような意味ですか。正しいものに○、正しくないものに×を  
書きなさい。 (1課 p.4 「内容を確認しよう 3」の転用)

- ① ( ) スポーツをして、体を元気にする。
- ② ( ) 音楽を聞いて、心をいやす。
- ③ ( ) 自然の中の音を聞いて、心をいやす。

4) 内容が正しいものに○、正しくないものに×を書きなさい。

(1課 p.4 「内容を確認しよう 1」の転用)

- ① ( ) 「音楽療法」は音楽を利用して、ストレス解消や体を元気にすることだ。
- ② ( ) 「音楽療法」の方法は音楽を聞くことだけだ。
- ③ ( ) 「音楽療法」の音楽は何でもよい。